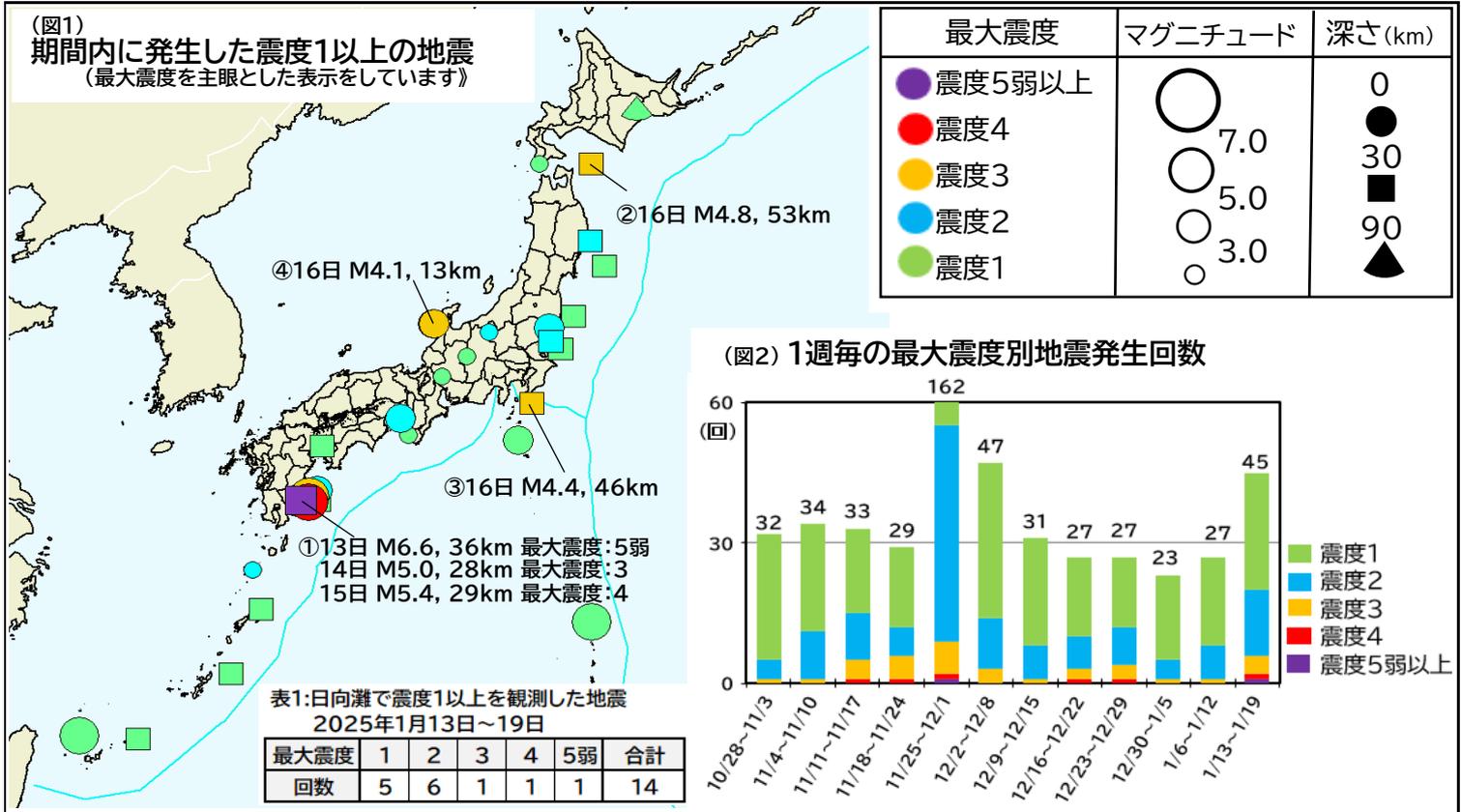


この期間の最大震度は5弱(日向灘で発生)

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典: 気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1, 図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が45回発生。最大震度は5弱。 ■
- ①1月13日21時19分に日向灘で発生した地震(M6.6、深さ36km)により、宮崎県宮崎市・高鍋町・新富町で震度5弱を観測したほか、九州地方を中心に中部地方から鹿児島県にかけての広い範囲で震度4~1を観測。この地震は南海トラフ巨大地震想定震源域内で発生したもので、昨年8月8日に発生したM7.1の北西約20kmで発生。この地震の当初のMが6.9だったことから21時55分に南海トラフ地震臨時情報(調査中)を発表し、23時45分に南海トラフ地震臨時情報(調査終了)を発表。19日までに震度1以上を観測した地震は表1のとおり。
- ②1月16日07時38分に青森県東方沖で発生した地震(M4.8、深さ53km)により、青森県階上町と東通村で震度3を観測したほか、北海道南部から東北地方北部にかけて震度2~1を観測。
- ③1月16日09時07分に千葉県南東沖で発生した地震(M4.4、深さ46km)により、千葉県館山市で震度3を観測したほか、千葉県から静岡県にかけて震度2~1を観測。
- ④1月16日21時22分に石川県西方沖で発生した地震(M4.1、深さ13km)により、石川県志賀町で震度3を観測したほか、石川県と富山県で震度2~1を観測。

トピックス

- 南海トラフ巨大地震などの地震発生確率がアップ ■
- ・地震調査委員会は、南海トラフで発生が想定されているM8~9クラスの地震が30年以内に発生する確率を、これまでの「70~80%」から「80%程度」に引き上げたと発表しました。
- ・南海トラフ想定震源域で何か異常なことが起きているのでしょうか?
- ・地震の発生確率の算定には、過去の地震の発生間隔や直近に発生した地震からの経過年数などから計算しており、想定した地震が発生しない限り発生確率値が時間の経過とともに増加する計算モデルを用いており、毎年1月1日時点での値を発表しています(図3参照)。
- ・地震発生確率は、計算された値を丸めて発表(例えば、四捨五入して10%単位)しているため、0.1%増えたことにより10%引き上げられる場合もありますが、それまでの値と変わらない場合もあります。
- ・南海トラフ地震の想定震源域内では、1月13日にM6.6や、昨年8月8日にM7.1の地震が発生していますが、これらの地震の発生によって想定されている南海トラフの震源域に異常な現象が観測されて確率を引き上げたわけではありません。時間の経過とともに確率がアップしたものです。
- ・この他にも「宮城県沖地震」は、これまでの「70%から90%」から「80%から90%」に引き上げられるなど、確率がアップしたものがああります。

